



基本計画



第2次計画の目標像と目標指標

(1) 第2次計画の目標像



茶業の成長産業化

～収益力が高く、強く攻めの茶業への転換～



第1次計画では、「地域力が高い真のお茶のまちへ」を目標像とし、これまで100年後の将来像である世界中の誰もがあこがれるお茶のまちづくりに向けた機運醸成・環境整備を行ってきました。

しかしながら、昨今の茶業を巡る厳しい状況の中で、本市が活力ある日本一の茶どころとして持続的に維持・発展し、茶生産農家はもとより茶業関係者が将来に希望をもって持続可能な安定した経営を可能とするためには、収益力が高く、もうかる茶業の実現が欠かせません。

今こそ、収益力が高く、強く攻めの茶業への転換を図り、茶業の成長産業化に向けてあらゆる関係者が大同団結して取り組んでいく必要があります。



(2) 第2次計画の目標指標



静岡市の茶産出額・・・30億円(平成29年実績を維持)



第2次計画においては、茶業の成長産業化を図り、「稼ぐ茶業」へと転換していきます。国内需要の減少に伴う茶価の低迷により、お茶の産出額は下落していますが、「稼ぐ茶業」への転換によって産出額の下落に歯止めをかけ、現状の水準を維持していきます。



「お茶のまち静岡市」を誇りに思う市民の割合・・・100%



「お茶のまち静岡市」を誇りに思う、全ての市民がそう思うまちであることが、何ものにも代えられない“日本一の茶どころ”であると考え、第1次計画では目標指標として設定しました。この考え方は、第2次計画においても同様であることから、第1次計画に引き続き、100%を目指し取り組んでいきます。



首都圏における「お茶のまち静岡市」の想起率・・・90%



本市茶業の成長産業化に向けては、市内に留まらず、全国に向けて「お茶のまち静岡市」を発信し、「静岡市のお茶」の認知度向上・消費拡大を図る必要があります。このため、日本の政治・経済・文化の中心であり、全国に向けた情報発信の拠点である首都圏において、静岡市が「日本一のお茶のまち」であることを浸透させていきます。



第2次計画の重点施策と取組内容

(1) 重点施策

第2次計画では、「稼ぐ茶業」への転換を目指し、本市茶業に関するSWOT分析から導き出した次の3つの重点施策を設定し、これに積極的に取り組むこととします。

重点施策1 静岡市型茶経営基盤整備の強化・推進

(弱みW×機会O=段階的戦略)

中山間地域の茶園でも効率的な生産が可能となるような基盤整備を進めるほか、担い手への茶園集積や複合作物の導入などを進め、経営体質の強化に取り組めます。併せて、戦略的な経営を行うことができる人材や組織の育成、中心的経営体に対する重点的な支援体制を構築していきます。

重点施策2 海外輸出力の強化と推進基盤の整備

(強みS×機会O=積極化戦略)

現在、緑茶(リーフ)の国内消費量の低迷などにより、お茶の取引価格は下落しています。一方で、海外では健康志向の高まりや和食ブームにより、抹茶・煎茶を含めた「日本のお茶」への注目が集まり、日本茶の海外への輸出数量・輸出金額は年々増加しています。この機会を捉え、「静岡市のお茶」の海外輸出力を質的・面的に強化し、茶業振興に繋げていきます。

重点施策3 国内消費の拡大・新たな需要の創出

(強みS×脅威T=差別化戦略)

本市は、一世帯あたりの緑茶(リーフ)の年間購入数量と年間支出金額が日本一です(平成30年)。今後もこの日本一を堅持するとともに、緑茶の国内消費を底上げしていくため、茶文化の普及・啓発、「静岡市のお茶」の消費拡大、「お茶のまち静岡市」のシティプロモーション等に係る施策を総合的に展開するとともに、新たな需要の創出にも取り組んでいきます。

(2) 重点施策の目標指標と取組内容

重点施策1 静岡市型茶経営基盤整備の強化・推進



施策の概要

本市の茶園は良質な茶生産に適しているものの、平坦地と比較して効率的な管理を行うことができる園地が少なく、規模を拡大することが容易ではありません。また、高齢化等により、茶業の担い手が減少している等の課題があります。

このような厳しい状況下で茶業を存続していくためには、年間を通じ安定した収入を確保するため、マーケットインの手法を取り入れ、荒茶生産や販売の多様化を図るとともに、野菜や果樹などの複合作物の導入推進も併せて図り、経営体質を強化していく必要があります。

本市では、効率的な管理を行うための基盤整備を進めるとともに、戦略的な経営を行うことができる人材や組織の育成、中心的経営体に対する重点的な支援体制を構築し、持続可能な茶産業を目指していきます。



目標指標

目標指標

静岡市が掲げる年間農業所得目標(500万円)を達成した認定農業者(茶)の割合
25%(平成30年度) ⇒ 55%(令和12年度)



取組内容

① 小規模基盤整備の推進

茶園の効率的な管理を図るため、園内作業道の整備や資機材の共同管理、経営を安定させるための複合作物の導入などを支援していきます。また、やる気のある担い手に茶園を集積させるための支援も進めていきます。

② 大規模基盤整備の推進

区画整理や農用地造成により、機械化など作業効率を改善するとともに、担い手への農地集積を図ります。併せて、生産効率の改善とともに茶改植等による付加価値の向上を目指します。

③ 人材や組織の育成、担い手の確保

「求められるものを作る」戦略的な経営を行うことができる中心的経営体(個人・組織)の育成を推進します。個々の特性を生かせるよう、各種団体等による様々な支援を必要に応じて実施・活用することで、経営的な視点を持った担い手を育成していきます。

重点施策2 海外輸出力の強化と推進基盤の整備



施策の概要

お茶の国内需要が減少する中、世界的な健康志向の高まりや、2013年に和食がユネスコ文化遺産に登録されたことによる和食ブームを追い風に、海外におけるお茶への関心は年々高まっています。

このような状況を受け、国は、「農林水産物・食品輸出1兆円」という目標を打ち出し、その中でお茶の輸出も2020年までに150億円を目指すこととしています。

本市としましては、「静岡市のお茶」を海外に向けて発信し、国際的なプレゼンスの強化を図るとともに、市内の茶業関係者と連携した海外販路の開拓や海外輸出に対応できる高品質なお茶を生産する体制を整備していきます。



目標指標

目標指標

本市事業に係る「静岡市のお茶」の輸出量:10倍

0.58t(平成30年度) ⇒ 5.5t(令和12年度)



取組内容

① 海外輸出力の強化

「静岡市のお茶」の輸出量拡大に向け、海外でのプロモーションの実施や商談会への参加、見本市への出展等を行う茶業者の支援を行うとともに、海外の飲食店や宿泊施設などで取扱量増加も推進していきます。

② 輸出環境・体制の整備(サプライチェーンの創設)

市内のお茶に関係する機関・団体等が力を合わせ、大同団結して海外への輸出力を強化していく体制を整備します。このような体制を整備することにより、関係者が一丸となって生産から販売までの一貫した取組を推進していきます。

③ 海外輸出に適応した生産体制の整備

海外に輸出することができるお茶を生産するため、茶園の基盤整備や品質管理のための認証取得を支援していきます。また、IoTを活用したスマート農業の導入等を推進し、生産効率の向上を図っていきます。

重点施策3 国内消費の拡大・新たな需要の創出



施策の概要

本市における2018年の緑茶の年間購入数量は2,333g／世帯、年間支出金額は10,104円／世帯と、ともに日本一となっています。今後もこの年間購入数量・年間支出金額の日本一を堅持するため、茶文化の普及・啓発、消費拡大、シティプロモーション等に係る様々な取組を総合的に展開し、国内消費を拡大するとともに新たな需要を創出していきます。



目標指標

目標指標

1世帯あたりの緑茶購入数量

2,333g／年(平成30年度) ⇒ 2,600g／年(令和12年度)



取組内容

① 普及・啓発

お茶に親しみ、楽しむ習慣を身に付け、「お茶のある豊かな生活」を送ってもらうために、子供の頃からお茶に親しむための取組を推進していきます。小中学校での愛飲促進や、お茶の美味しい入れ方教室などのほか、新商品・新技術開発の支援も行います。

② 消費拡大

「日本一のお茶消費地・静岡市」を維持するとともに、日本全国でお茶の消費を拡大させるための取組を推進していきます。国内販路開拓の支援や6次産業化の推進、飲食業界との連携等により、「静岡市のお茶」を多様なライフスタイルに合わせて楽しむことができる出会いの場を創出していきます。

③ シティプロモーション

国内外での認知度を向上させるとともに、市内産地への誘客による「静岡市のお茶」のファンを増やす取組を推進していきます。首都圏でのプロモーションや、お茶ツーリズムの推進等により、「お茶のまち静岡市」のブランディングを図ります。

3

目標達成に向けた具体的方策

人々の心を引きつけるお茶をつくるまち【産業】

① 今後の茶業を担う中心的経営体の育成

時代の流れを捉え、変化の激しいマーケットに迅速に対応するとともに、マーケットインの発想に基づく戦略的な経営を行うことができる経営体を育成します。

② 集散地機能の強化

生産現場と消費現場との懸け橋になる茶商を育成するとともに、全国からお茶が集まるまちとしての機能を強化していきます。

③ 新規就農・参入者の育成・確保

次代への産地及び茶業経営の継承の基礎となる担い手について、計画的な育成・確保に取り組んでいきます。

④ 茶園の基盤整備の推進

中山間地域の茶園は良質な茶生産に適しているものの経営規模の拡大が大きな課題となる中、中山間地域に合った園地改良と機械化を進め、効率的な茶園管理を推進します。

⑤ 茶工場の体制強化

持続可能な茶業に向けて、経営拠点となる茶工場の機能強化(生産機能の向上、販売力向上、茶商との連携など)を図ります。

⑥ 山間地茶業の支援

山間地として独自に有する地域資源を活かしながら、“山のお茶”の生産・消費を支えるサポーターや仕組みづくりを確保・確立していきます。



⑦ 認証取得等による品質管理の強化

近年、消費者の食品に対する安全安心や環境保全に対する意識が高まる中、山のお茶の特色を活かした高品質なお茶づくりと高付加価値化を図るため、GAPやHACCPなどの認証取得を推進し、品質管理を強化します。

⑧ 国内販路拡大推進

国内販路の拡大を図るため、展示会や商談会への出展を支援していくほか、各種プロモーション事業を実施し、プレゼンスの向上に努めます。

⑨ 海外輸出力の強化

和食ブームや健康ブームの中で高まりつつある“日本茶”への関心を捉え、海外販路の拡大を図るとともに、生産から販売まで関係者が連携して輸出に取り組む体制を整備します。

⑩ お茶を活かした産学連携の推進

健康をテーマとした需要回復に大きな期待が寄せられる中、市内に立地する大学や研究機関との連携により、お茶の機能性成分の研究・活用や新商品開発を進めていきます。

⑪ 消費者ニーズに合う新商品・新技術の開発

産学交流センター、清水産業・情報プラザ、SOHOしずおかななどの産業・創業支援施設と連携して、お茶を活用した新商品開発・新事業展開を図ろうとする事業者を支援していきます。





お茶が生活・文化の一部となり心やすらぐまち【生活／文化】



① お茶の愛飲促進

お茶に親しみ、「お茶がある豊かな生活」を送るため、生活の様々な機会でお茶に触れ、楽しむことができるような取組を推進します。

特に、小中学校において、児童生徒がお茶を飲む機会や児童生徒に対するお茶の食育の機会を確保することにより、児童生徒のお茶の愛飲を促進します。

② お茶を飲み、触れ合う機会の創出

子供の頃からお茶に触れる機会を創出するとともに、お茶を飲む家庭を増やしていけるような取組を推進します。

また、お茶のまちづくりは人づくり。「お茶のまち静岡市」の魅力を発信し、お茶との触れ合いを創出できる人材を養成します。

③ 静岡市「お茶の日」の普及啓発

静岡市民が改めてお茶に目を向ける日、お茶を介して心を和ませる日、お茶を介してふるさとや友を想う日。そのような静岡市にゆかりのある「お茶の日」を広く普及していきます。また、様々な普及啓発事業を実施していきます。

④ 飲食業連携とお茶を介した食習慣の提案

飲食業界と連携し、現代のライフスタイルに望まれ、親しまれる“お茶を介した食”を提案し、普及していきます。

⑤ カフェ文化の創出・育成

街角や居住空間でお茶に出会う機会を増やすため、日本茶を楽しめるカフェ文化の普及に努め、「お茶と出会う場」を創出していきます。

⑥ お茶の効能の研究・活用

日々研究が進むお茶に含まれる成分の有効性を広く普及するとともに、その効能を活かした、健康やかな生活づくりを進めていきます。



お茶を中心に交流の輪が広がるまち【都市／交流】

① JR静岡駅における情報発信

駅に降り立つお客様に「お茶のまち静岡市」を印象付けられるよう、JR静岡駅において積極的な情報発信を行います。

② 産地間連携の推進と産地の情報発信力の強化

スケールメリットを活かすことで効果がある取組を、産地間の連携を図ることにより推進していきます。また、消費者が求める安全で安心な商品の提供に対して、生産者の顔が見えるPR事業は重要であることから、生産者などが自ら情報発信していく力を強化していきます。

③ 市外・県外へのプロモーション

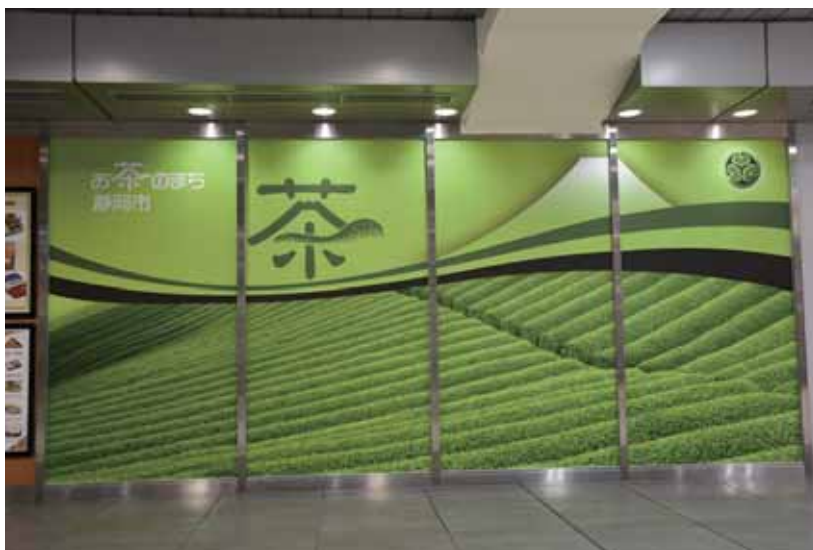
市内に留まらず、全国に向けて「お茶のまち静岡市」と「静岡市のお茶」の認知度を高めていくため、茶業者や静岡地域連携DMOなどと連携したプロモーションを展開していきます。

④ キャッチフレーズ等を活用した情報発信

お茶に興味や関心がない人たちに振り向いてもらうため、頭と心に残るキャッチフレーズなどを活用した情報発信を行うことにより、「静岡市のお茶」のプレゼンスを高めます。

⑤ お茶ツーリズムの推進

本市はお茶の生産地であり、消費地であり、集散地でもあります。これら本市のお茶の魅力をまるごと体験することができるお茶ツーリズムを推進することで、交流人口の拡大と茶業者の所得向上を図ります。



具体的方策を実施するための観点

具体的な方策を実施する上では、マーケットインの視点に基づき、次の観点からこれに取り組み、「お茶のまち静岡市」のブランディングを強化していきます。



守り：茶産業の基盤強化

持続可能な茶業を実現するためには、茶産業の基盤強化が必要です。茶産業の基盤となる茶園や人材、技術などを積極的に確保・強化し、「魅力あるお茶・人材・茶畑づくり→「静岡市のお茶」のブランド化」に繋がっていきます。



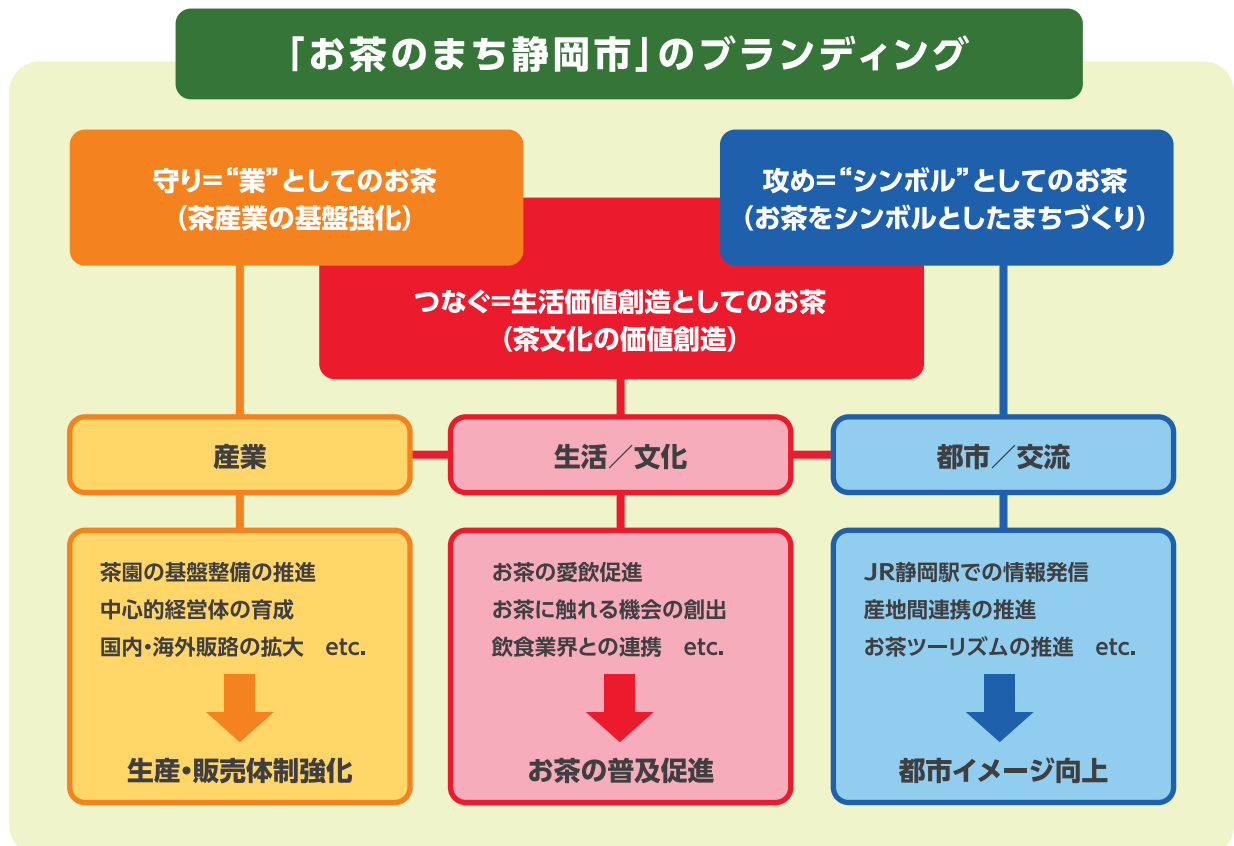
攻め：お茶をシンボルとしたまちづくり

本市がお茶のまちとしてあり続けることが、ひいては人口活力の維持にも繋がります。お茶をシンボルとしたまちづくりを徹底的に進め、「お茶のまち静岡市」としてのブランド化→本市における移住・定住・関係・交流人口の拡大」に繋がっていきます。



つなぐ：茶文化の価値創造

業としてのお茶を守りつつ、お茶のまちづくりを進める中で、双方を繋ぐものが茶文化です。茶文化の価値創造により、地元のお茶や人・茶畑と市民・来静者との接点が増大します。市民生活に根付いた茶文化風土の醸成や多彩な「お茶+X」を創出します。





第2次静岡市茶どころ日本一計画

基本構想

目的

将来像

基本
方向

「お茶が育む幸せな生活」がこの地に永く続くこと

世界中の誰もがあこがれるお茶のまち

【産業】

人々の心を引きつけるお茶をつくるまち

【生活／文化】

お茶が生活・文化の一部となり心やすらぐまち

【都市／交流】

お茶を中心に交流の輪が広がるまち

11年後の
目標像

11年後の
目標指標

重点
施策

茶業の成長産業化
～収益力が高く、強く攻めの茶業への転換～

首都圏における「お茶のまち静岡市」の想起率：90%
「お茶のまち静岡市」を誇りに思う市民の割合：100%
静岡市の茶産出額：30億円（平成29年実績を維持）

重点施策1

静岡市型茶経営基盤
整備の強化・推進

目標指標

静岡市が掲げる
年間農業所得
目標（500万円）
を達成した
認定農業者（茶）の割合
55%

重点施策2

海外輸出力の強化
と推進基盤の整備

目標指標

本市事業に係る
「静岡市のお茶」
の輸出量
5.5t

重点施策3

国内消費の拡大・
新たな需要の創出

目標指標

1世帯あたりの
緑茶購入数量
2,600g/年

茶業の成長産業化

日本一計画 施策体系



基本計画

基本方向

基本的方策

具体的方策

主な取組内容

産業

人材育成

- ① 今後の茶業を担う中心的経営体の育成
- ② 集散地機能の強化
- ③ 新規就農・参入者の育成・確保

- 関係機関による総合支援対策の実施
- 静岡茶市場・茶商との連携推進
- 担い手の育成支援

体制整備

- ④ 茶園の基盤整備の推進
- ⑤ 茶工場の体制強化
- ⑥ 山間地茶業の支援

- 静岡市型茶園基盤整備の推進
- 地域拠点となる茶工場の機能強化
- 山のお茶の情報発信、生産者情報の発信

販売力強化

- ⑦ 認証取得等による品質管理の強化
- ⑧ 国内販路拡大推進
- ⑨ 海外輸出力の強化

- GAP等認証取得の促進
- 展示会・商談会への出展支援
- 海外販路開拓支援、輸出サプライチェーンの創設と運営

商品技術革新

- ⑩ お茶を活かした産学連携の推進
- ⑪ 消費者ニーズに合う新商品・新技術の開発

- 大学との連携、6次産業化の推進
- 新商品の開発・導入支援

生活／文化

普及促進

- ① お茶の愛飲促進
- ② お茶を飲み、触れ合う機会の創出

- 市内小中学校における愛飲促進
- 美味しいお茶の入れ方教室、お茶の学校等講座の実施

生活創造

- ③ 静岡市「お茶の日」の普及啓発
- ④ 飲食業連携とお茶を介した食習慣の提案
- ⑤ カフェ文化の創出・育成

- 「お茶の日」の情報発信、イベント開催
- 飲食店における美味しいお茶の提供
- 市内お茶カフェの情報発信

価値向上

- ⑥ お茶の効能の研究・活用

- 「静岡市のお茶」機能性表示の導入検討

都市／交流

情報発信

- ① JR静岡駅における情報発信
- ② 産地間連携の推進と産地の情報発信力の強化

- JR静岡駅における広告掲出・情報発信
- 周辺産地間連携の推進、共同イベント出展

認知度向上

- ③ 市外・県外へのプロモーション
- ④ キャッチフレーズ等を活用した情報発信

- 首都圏でのプロモーション
- 茶業者による「しずお茶」プロモーション、アイデア商品活用

魅力向上

- ⑤ お茶ツーリズムの推進

- 茶巡りデスクの運営、コンテンツの拡充